



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



西東京の糖尿病医療連携を支えていただいた
先生方からの学び

[当法人理事]

駒沢女子大学/緑風荘病院

西村 一弘 [管理栄養士]

本年は一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワークの執行役員の先生方の世代交代が行われ、杏林大学の近藤 琢磨代表理事による新しい時代が始まる記念すべき年になると思います。創成期から近年までを支えてくださった多くの偉大な先人からの学びを糧に、さらなる飛躍に期待しています。

現在では多職種が協働するチーム医療は当たり前になっていますが、30年以上前に(故)近藤 甲斐夫先生や伊藤 眞一先生、高村 宏先生等を中心にこの地域では、糖尿病医療は医師だけではなく看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士等々複数のメディカルスタッフと共に研鑽して、患者様の療養指導を行っていくということが始まりました。その後、前代表理事の貴田岡 正史理事長、(故)植木 彬夫前副理事長、宮川 高一前副理事長、菅野 一男前副理事長等によりNPO法人 西東京臨床糖尿病研究会を経て、現在の一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワークに発展しました。特に昨年末に他界された植木 彬夫先生には、たくさんのメディカルスタッフ、直接事業・間接事業のみならず、スポーツや娯楽でもお世話になりました。全ての先生方のお名前をあげられませんが、この地域はご高名な専門医の先生が多く、たくさんの勉強会の開催が頻繁に行われて高度な知識の普及が成され、メディカルスタッフにとっては極めて貴重な地域であることを、誰もが実感していると思います。

管理栄養士の(故)高村 香代子先生は高村 宏先生と共に、管理栄養士がいない診療所等への管理栄養士の紹介事業という画期的な仕組みを構築され、現在も全国の模範となっています。また、堀口 ハル子婦長のとことん患者本位の姿勢は現在の西東京糖尿病療養指導の基本にもなっていると思います。本年4月に他界された武居 正郎先生も小児期発症の1型糖尿病の患者にとっては、「聖地」と言われる福島県霊山町でのサマーキャンプを長年支え、山梨県でファミリーキャンプも毎年行い、たくさんの患者様とその家族を支えてきました。

これら多くの先人が残してくれた「楽しみながら新しいことにどんどん取り組む姿勢」や「どんな時も患者ファーストの姿勢」を継承して、新しい時代を作っていただける先生方と一緒に、私も残り少ない現役生活を患者様のために尽くしていきたいと考えています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 ●次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

34歳、女性。22歳時に1型糖尿病を発症し強化インスリン療法開始。独学でカーボカウントを取り入れていたがHbA1cは9~10%台で推移。30歳で結婚し、夫の仕事で海外へ移住、3年後に帰国。海外移住中は眼底検査を受けなかった。帰国後すぐに妊娠が判明し血糖コントロールのため妊娠10週で入院。入院後、鉄欠乏性貧血が判明し、鉄剤開始。

【身体所見】身長160 cm、体重67kg、非妊娠時65kg、血圧114/84mmHg、脈拍88/分、整。

【検査所見(入院翌日)】空腹時血糖値 93 mg/dL、食後2時間血糖値 175 mg/dL、HbA1c 8.2%、総コレステロール 217mg/dL、トリグリセリド140mg/dL、赤血球 429×10⁴/μL、Hb 8.9g/dL、尿糖(-)、尿蛋白(+)、尿ケトン体(+)

この患者について正しいものはどれか、1つ選べ。

1. 眼底検査を受けるのは、妊娠中期まで待つべきである
2. インスリン需要量は、非妊娠時よりも減る可能性が高い
3. 胎児奇形の有無が決定されている妊娠週数である
4. FreeStyleリブレは保険適用とならない
5. 貧血改善により、1か月後のHbA1cは現在よりも高くなるのが予想される



報告

糖尿病災害対策委員会 第9回医療者向けセミナー

日時: 令和4年3月10日(木)
オンライン

[当法人理事] 武蔵野赤十字訪問看護ステーション 豊島 麻美 [看護師]

令和4年3月10日、糖尿病災害対策委員会の第9回医療者向けセミナーがオンラインで開催されました。毎年医療者向け・市民向けのセミナーが行われていましたが、終息がみられないCOVID-19の影響により、医療者向けは昨年同様、オンラインでの開催となりました。

開会に先立ち、東京医科大学八王子医療センターの大野先生からは、関連学術集会において、本会の先生方の災害講演やシンポジストとしての活躍が紹介されました。中でも1月22日に行われた第59回の関東甲信越地方会前の深夜1時08分に日向灘沖ではM6.6、震度5強の地震が発生していました。本会の取り組みの永続性を試されているかのような偶然性を感じました。テーマは「災害に備えるためにPostコロナに向けた糖尿病の療養指導」～コロナ禍から何を学ぶか～と題し、シンポジウム形式に絞って行いました。

シンポジストは、宮川 高一先生、指田 麻未先生、菅原 加奈美先生、西村 一弘先生の4名の方から、コロナ共存における災害対策についてご発表がありました。指田先生は、シックデイに関して患者さんのオーダーメイドのルールを指導するための独自で作成した教材の紹介がありました。菅原先生からは、感染予防対策を厳重に行いながら、クリニックで行っている糖尿病教室の紹介がありました。西村先生からは、日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)についての紹介があり管理栄養士の災害対応への組織力を感じました。そして宮川先生からは、自然災害に加え、人災と言えるウクライナ情勢の「今」が伝えられ、現地やヨーロッパのDr達の支援で「インスリン共有」の助け合いが行われていることを教えていただきました。



各地での地震が頻発し、コロナ禍の閉塞感も持続する中で、63名もの参加者にお集まりいただき、コロナ禍における糖尿病災害対策への多面性を感じた一日となりました。

報告

第10回薬剤師糖尿病指導研究会

日時: 令和4年3月19日(土)
オンライン

[当法人監事] かの内科 菅野 一男 [医師]

第10回薬剤師糖尿病指導研究会を3月19日(土)にCovid-19の状況を鑑み、はじめてオンラインで開催しました。今回のテーマは「糖尿病治療薬～知っておきたい服薬指導と最新のエビデンス～」ということで、67名にご参加いただきました。

第一部では「アドヒアランス(コンコーダンス)向上に薬剤師が寄与する方法を考える～最新のGLP-1受容体作動薬から学ぶ～」と題し、株式会社大和調剤センターの森 貴幸先生にご講演を賜りました。患者さんと医療者を同じチームの一員として考え、対等に手を取り合っていくことで、患者さんの自主性を基にしたより良い治療を行うことができる点をご教示いただきました。また、新たな糖尿病治療薬である経口GLP-1受容体作動薬の服薬指導時に注意する点や、患者さんに寄り添った服薬指導によりコンコーダンスを得ることができることをご発表いただきました。

第二部では「The Game Changers:時代は血糖降下から臓器保護～」と題し、帝京ちば総合医療センターの寺脇 博之先生よりご講演を賜りました。糖尿病性腎症(DN)、糖尿病性腎臓病(DKD)、糖尿病合併CKDの違いをその特徴や臨床診断の方法、疾患概念の背景など幅広い知識を明瞭にご説明いただきました。Game ChangersとしてのSGLT2阻害薬とGLP-1受容体作動薬が血糖降下以外の臓器保護を併せ持つ糖尿病治療薬として使用を推奨され、「近位尿細管のフォアグラ化」や「腹八分目ホルモン」などユニークで記憶に残る言葉で分かりやすく解説いただきました。最後に公衆衛生的な視点から、市原圏域糖尿病性腎症重症化予防対策について取り組みをお話いただきました。他職種とのコラボレーションが大切であり、健診の参加率を増やす為の学生を巻き込んだ活動など興味深い話をいくつもお話いただきました。時間いっぱいまでご質問にもお答えいただき非常に有意義な会となりました。





第56回糖尿病学の進歩
令和4年2月25日(金)～26日(土)
Web開催

[当法人会員]
多摩センタークリニックみらい
長谷川 亮 [医師]

「糖尿病学の進歩」は、1998年に医師となった私が当時初めて参加した学会です。研修医時代を立川相互病院で過ごした折、内分泌代謝科病棟で研修中に会期があり、全員参加という指導医の言により慌てて病棟を後にした事を思い出します。

今回の「第56回糖尿病学の進歩」は四国で開催を予定され現地出張を願っていましたが、昨今のコロナ禍により残念ながらWeb開催となりました。それでも、興味深く拝聴させていただいた話題をここにご報告させていただきます。

腎臓内科医の視点で、最も気になるのは言うまでもなく糖尿病性腎症の治療の進歩についてです。本来、治療(この場合は根治)とはその病因を排除し治癒に至る事であり、癌の場合は病巣の除去や癌組織の死滅を意味します。腎臓病においても、例えば腎炎の治療だと、何らかの原因により生じた腎の組織学的変化に対し、その原因の除去と炎症が改善に至る事となります。ところが糖尿病性腎症は、高血糖など長期間の暴露による不可逆的組織変性が病因で、根治が困難な病態です。つまり現在の糖尿病性腎症治療の到達点は末期までの病期進行を遅らせる事となり、この治療における薬の役割は、いかに悪化防止に寄与するか、となりますが、根治ではないため、万能とは言わないという点が重要です。この意味と役割を最も端的に解説していただけた演題が、東京女子医大・馬場園先生の「糖尿病性腎症の病態と治療」でした。この講演の中で、心不全治療におけるFantastic-4と並べて腎症治療におけるFantastic-4を掲げておられました。糖尿病治療薬ではSGLT2阻害薬、GLP1受容体作動薬の2剤がこの中に含まれ、腎症増悪因子の多くをコントロールし得る治療薬の進歩といえるでしょう。他にも高血圧治療や食事療法といった腎症と直接銘打っていない演題の中でも端々に、腎症を意識した内容が多く聞かれました。ただ残念なのは、次々と出る薬剤の大規模研究結果に圧されて、糖尿病治療の基本である食事療法や運動療法に関する演題の影が薄れてしまったこと。どの薬剤の添付文書にも食事運動療法を行った上で、と書かれているにも拘わらず、です。食事療法が基本とされる最大の理由、特に悪化防止に関わる最重要ポイントは減塩と過剰摂取の抑制。塩分過剰摂取の前では、講演中にあったARNIやMRAなど優れた新薬も十分効果を発揮できず、SGLT2阻害薬も薬効を超える過剰摂取には太刀打ちできません。少し前ですがある病院の外来で、食事療法や運動療法は時代遅れと笑う声を、大学派遣の非常勤医が話しているのを耳にしました。栄養や療養の相談は確かに手間や労力は膨大で一見薬の方が合理的に見えるのかもしれませんが、糖尿病治療や療養に関わる皆さま方の協力なくして腎症の治療はあり得ません。今回の学会研修を活かし必要な薬剤を使いながら、皆さま方とともに基本を忘れず食事や運動の指導を続けていきたいと思えます。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- 1: × 妊娠時には糖尿病網膜症が出現したり、進行したりする可能性があるため、早期の眼底検査が必要となる。
- 2: × 妊娠中のインスリン需要量は増加する。1型糖尿病合併妊婦では非妊娠時の約1.5倍となる。
- 3: ○ 児の奇形は高血糖が主な原因であり、妊娠8週(受胎後7週)までに奇形の有無は決定される。
- 4: × 以前は保険上【禁忌・禁止】とされていた時期もあったが、現在は保険適用である。
- 5: × 鉄欠乏性貧血の回復期には、HbA1cは低下する。

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第71回例会

 申込必要

テーマ：『糖尿病治療薬update 2022～新時代の経口血糖降下薬～』

開催日：2022年6月17日（金）19：20～21：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/17締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日糖協療養指導医取得のための講習会

参加費
無料

オン
ライン

 第57回糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

 申込必要

開催日：2022年6月26日（日）9：30～13：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：3,000円

申込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください（6/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中 他

オン
ライン

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第22回研修会

 申込必要

テーマ：『新しい超速効インスリンについて～話題提供：ハイブリッドクローズドループ』

開催日：2022年6月27日（月）19：20～21：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/27締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オン
ライン

 メディカルスタッフWebセミナー in Tokyo 2022

 申込必要

開催日：2022年7月7日（木）19：00～20：40

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（6/30締切）

問合せ：サノフィ(株) (担当：杉山) TEL:0120-852-297

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<看護1群>：0.5単位申請中 他

参加費
無料

オン
ライン

 第33回武蔵野糖尿病医療連携の会Hybrid学術講演会

 申込必要

テーマ：『糖尿病診療における身体活動及びスポーツを考える』

開催日：2022年7月9日（土）17：00～19：00

参加方法/場所：Zoom/地域保健企画ビル6階会議室（ふれあい相互病院となり）

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（7/7締切）

問合せ：サノフィ(株) (担当：青柳) メール：Kazuhiro.Aoyagi@sanofi.com

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

参加費
無料

ハイ
ブリ
ッド

 西東京CDEの会 第20回例会

 申込必要

テーマ：『「ミトコンドリア糖尿病」って何？聞いたことがある方もない方もこの機会にみんなで一緒に学びませんか！』

開催日：2022年7月16日（土）15：30～19：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 2,000円 / 一般 4,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

オン
ライン

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 2022年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第18回 西東京教育看護研修会
 第18回 西東京病態栄養研修会
 第18回 西東京薬剤研修会

第6回 西東京臨床検査研修会
 第6回 西東京運動療法研修会

開催日：2022年7月10日(日) 9:40~16:35

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：7,000円

申 込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2022年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」より
お申し込みください(6/30締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中 他

 オンライン

 糖尿病災害対策委員会 第9回患者さん向けセミナー

 申込不要

テーマ：『「1型糖尿病患者さんの為の災害対策」～災害時生き抜くための知恵と対策を学ぼう～』

開催日：2022年9月5日(日) 19:00~20:30

参加方法：Zoomにて開催いたします

※当日はセミナープログラムに掲載のQRコードよりご参加ください

 参加費
無料

 オンライン

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q. 年会費や研修会参加費の領収書は出してもらえますか？

A. どちらもマイページより発行できますので、印刷してお使いください。

<年会費の領収書> マイページの「年会費入金状況確認」より発行できます。

<研修会参加費の領収書> マイページの「その他の入金履歴」より発行できます。



年会費入金状況確認	
年会費の入金状況をご確認いただくことが出来ます。	
山田 太郎様の只今の入金状況	
入金状況	入金済み 領収書 ← ここから発行
会員の有効期間	2017/04/17~2017/12/31

入金履歴	
これまでの入金履歴をご確認いただくことが出来ます。	
入金内容	【普通系】 第14回西東京糖尿病療養指導研修会 [平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム]
金額	5,000円 領収書 ← ここから発行
決済方法	コンビニ
入金日	2017年05月15日 19時52分

※発行できる領収書のお名前は「登録会員名」となります。お勤めの病院名での領収書発行をご希望の方は、マイページからは発行できません。事務局までその旨、お申し出ください。

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



編集後記を担当させていただいていますが、ここ数回はコロナの話ばかりになってしまっています。5月は日本糖尿病学会学術集会ですが、今年も神戸は諦めて、今月、PCの前でオンデマンドでお勉強三昧の予定です。来年こそはお勉強だけでなく現地でご一緒と情報交換したいです!!!
 (広報委員 小林 庸子)



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network